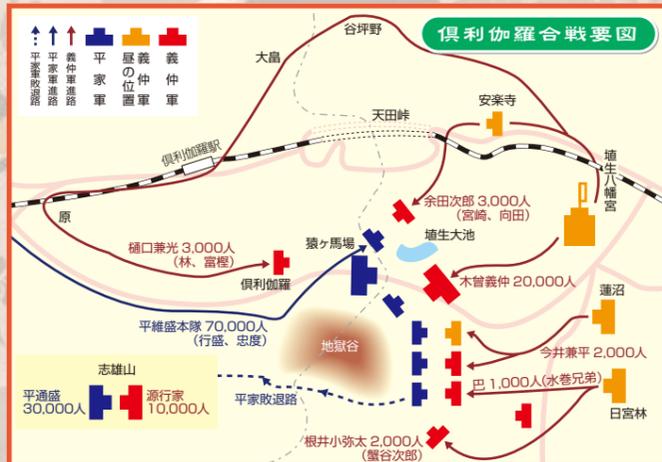


# 響き渡る義仲軍馬の声



寿永2年(1183)5月、信濃国で兵を挙げた木曾義仲と、それを迎え討つため北上した平維盛が碓波山において「倶利伽羅峠の戦い」を繰り広げた。このとき義仲は、埴生八幡宮に戦勝祈願文を奉納。その夜、義仲軍は関の声をあげ、約500頭の牛の角に燃えさかる松明をつけ平家軍めがけて突入。不意をつかれた平家の軍勢は、あわてふためき、十余丈(約30m)の地獄谷へ転がり落ちていった。これが世に名高い奇襲作戦「火牛の計」である。



源平倶利伽羅合戦図屏風(石川県津幡町竹橋・倶利伽羅神社蔵)

# 響き渡る義仲軍馬の声



見て来て体験メルヘンおやべ  
富山県 小矢部市

## 交通アクセス



●空路		●高速道路	
小松空港	約1時間30分	東京	約45分
札幌	約1時間30分	名古屋	約2時間30分
福岡	約1時間30分	大阪	約1時間30分
●電車		●タクシー	
東京	約2時間	石動タクシー	TEL (0766) 67-1133
名古屋	約3時間	津沢タクシー	TEL (0766) 61-2045
大阪	約3時間	高岡交通 小矢部営業所	TEL (0766) 23-1212

小矢部市観光課：小矢部市観光協会  
〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号  
TEL (0766) 67-1760 FAX (0766) 67-1567  
https://www.city.oyabe.toyama.jp/ E-mail kankou@city.oyabe.lg.jp



**1 埴生護国八幡宮** はにゅうこくはちまんぐう  
木曾義仲が戦勝を祈願したことで有名。約1300年の歴史をもち、国の重要文化財に指定されている。本殿は素木造りで安土桃山時代の特徴を現し、釣殿等には江戸初期の様式が残されている。加賀藩前田家の寄進により手厚く保護されてきた。宝物殿には、歴史上貴重な古文書などが納められている。小矢部市埴生 2992 (TEL.0766-67-1220)



**2 鳩清水** としのみす  
義仲が八幡宮祈願の際、白鳩の飛来があり、その案内で義仲軍が清水を得たと伝わる。「鳩清水」の滝を水源にしており、「とやまの名水」に指定されている。



**3 源義仲騎馬像** みなものよしななきばざう  
昭和58年に「源平倶利伽羅合戦800年記念」として建立。像の重量だけで5トンもあり、馬上の人物像としては日本最大級の騎馬像である。



**4 各務支考の句碑** かがみしこうのくひ  
～白鳩の 木末に涼し 神の御意～  
松尾芭蕉の弟子で十哲の一人といわれた各務支考が詠んだ。

**5 倶利伽羅源平の郷埴生口** くりからげんべいのさとにはゅうぐち  
「歴史国道」の案内休憩施設。倶利伽羅峠について楽しく学ぶことができる遊学塾。無料で電動アシスト自転車レンタルができる。  
小矢部市埴生 2996-5 (TEL.0766-67-5645)  
営 9:00～17:00  
休 月曜日 (祝日の場合はその翌日)、12月29日～翌1月3日



**6 義仲進軍路碑** よしなかしんくろのひ  
義仲はこの地より毘沙門川を上がり、進軍したという。

## 倶利伽羅にちなんだ年中行事

- 歴史国道イベント**  
4月中旬  
倶利伽羅峠～埴生護国八幡宮
- 倶利伽羅さん八重桜まつり**  
4月中旬～下旬  
倶利伽羅峠
- 倶利伽羅さん念仏赤餅つき**  
4月中旬  
倶利伽羅不動寺(津幡町)
- メルヘンおやべ源平火牛まつり**  
7月下旬  
石動商店街
- 宮めぐりの神事**  
9月中旬  
埴生護国八幡宮
- 源氏太鼓**  
9月第2日曜日  
下後巫神明宮

**倶利伽羅八重桜**  
倶利伽羅不動寺に通じる道路の両脇に約6,000本余りの八重桜の並木が続き、毎年4月中旬頃になると、花が満開となり、花見客で賑わう。倶利伽羅峠で事故にあい、奇跡的に助かった高木勝己氏が恩返しに植樹を始めたもので、「昭和の花咲かじいさん」と呼ばれた。

## 木曾義仲とはどんな人物? ～義仲と巴、波瀾万丈の生涯～

### ～木曾義仲《年表》～

1154年(久寿元年) 駒王丸(後の義仲)、武蔵国(今の埼玉県)に生まれる。  
1155年(久寿2年) 駒王丸の父 源義賢が源義平に討たれる。  
駒王丸、信濃国(今の長野県)木曾の中原兼遠のもとに逃れる。  
1156年(保元元年) 保元の乱  
1159年(平治元年) 平治の乱  
1166年(仁安元年) 駒王丸、元服して木曾冠者次郎源義仲を名乗る。  
1180年(治承4年) 平家の横暴に対して以仁王が平家追討の令旨を全国にふれまわす。9月、義仲、挙兵する(27歳)  
1181年(養和元年) 義仲、平家方の城氏を横田河原の戦いで撃ち破る。  
1183年(寿永2年) 5月、義仲、倶利伽羅峠の戦いで奇襲作戦「火牛の計」を用いて平家の大軍を撃ち破る。7月、義仲、京へ進軍。後白河法皇より「朝日将軍」の称号を賜る。11月、義仲、後白河法皇と対立、法皇は源頼朝に援助を求める。  
1184年(寿永3年) 源頼朝、源頼朝・源義経を京へむかわせる。義仲、征夷大將軍(「征東大將軍」との説もあり)に任ぜられる。義仲、範頼・義経に攻められ、近江国(今の滋賀県)粟津で討ち死にする(31歳)



### ■木曾義仲(源義仲) きそよしなか(みなものよしなか)

平安時代末期の信濃国(今の長野県)の武將。源頼朝・義経とは従兄弟にあたる。平家追討のため、27歳で挙兵。倶利伽羅峠で平家の大軍を破って上洛し、平家を都落ちさせ無血入京を果たす。その後、後白河法皇と対立し、源頼朝が派遣した源義経らの軍に敗れ、31歳で討ち死にした。



### ■巴 ともえ

その生涯は謎に包まれており、「平家物語」によれば「色白く髪長く、容顏まことに優れたり」という美人で、「強弓精兵、一人当千の兵者(つわもの)」であったという。幼い頃から義仲とともに育ち、義仲挙兵後も女武將としてともに戦った。最後の戦いでは、義仲とともに死ぬことを願ったが、義仲に諭され、泣く泣く落ち延びていったという。



**7 8 巴塚・葵塚** ともえつか・あおいづか

巴と葵は、義仲とともに戦った勇猛な女武将。葵は砺波山で討死、巴は色白・美麗、また騎馬乗り・弓矢の達人で一人当千の活躍をしたという。



**9 中たるみの茶屋跡** なかたるみのちやあつと

古来より北陸道を通る人が砺波平野を見渡し、中休みしたところ。

**10 峠(天池)茶屋跡** とうげの(あまいけ)ちやあつと

昭和の初め頃まで茶屋のあったところ。

**11 矢立** やだて

矢立山周辺は、義仲軍の最前線であった所。幅約200m程の谷を隔てた塔の橋より平家軍が矢を放ち、ここに多くの矢が立ったことが「矢立山」の名の由来。

**12 塔の橋** とうのはし

平家軍の最前線だったところ。矢立山の今井兼平軍に矢を放った場所。

**13 源氏ヶ峰** げんじがみね

倶利伽羅峠の戦いにおいて、平家軍陣地だったこの峰を義仲軍が占領したので、この名がつけられたという。

**14 砺波山の詞碑** となみやまのしひ

儒学者木下順庵と加賀藩の学者富田景周の火牛の戦法をたたえた詞の碑。

**15 猿ヶ馬場** さるがばば

倶利伽羅峠の戦いにおいて、平家の総大将 平維盛が本陣をおいた。ブナ林の中に軍議石と本陣跡標柱、その奥には伝説の猿を祀った猿ヶ堂がある。

**16 ブナ原生林** ふなげんせいりん

市指定天然記念物。高山植物である「ふな」が250m程の低所に自生している珍しい林。

**17 芭蕉塚** ばしょうづか

～義仲の寝覚めの山か月悲し～  
松尾芭蕉が義仲に想いを馳せ、越前燧ヶ城で詠んだ句であるが、義仲の最も輝かしい勝利を取った倶利伽羅古戦場のことを詠ったともいわれる。

**18 倶利伽羅小道** くりからこみち

当時の面影を残す旧北陸道跡。江戸時代の俳聖 松尾芭蕉など、多くの文人墨客が往来した。

**19 源平供養塔** げんへいきようとう

高さ 6.8m の五輪塔。合戦において犠牲となった源平両軍の兵士の霊を弔うため、昭和49年に建立された。毎年5月12日に追悼法要が営まれている。

**20 平為盛塚** たいらのためもりづか

平為盛は、総大将 平維盛の部将として戦ったが、義仲軍の夜襲により敗走。翌日夜が明けるとともに手兵50騎を率いて義仲軍に逆襲したが、義仲の部将 樋口兼光により首をはねられた。この勇猛な武将を弔って建てられたもの。

**21 蟹谷次郎碑** かにたのじろうひ

義仲軍の先導を承った郷土の蟹谷次郎を讃え、源氏太鼓保存会が建立。戦勝を祝って打ち鳴らした勝鬨太鼓が「源氏太鼓」として伝承されている。

**22 倶利伽羅不動寺** くりからぶどうじ

小矢部市と石川県津幡町との境界に位置する日本三不動の一つ。奈良時代初期の養老2年(718)、中国から渡来したインドの高僧、善無畏三蔵が北陸路巡錫の際、砺波山に棲み村人や旅人に災いをかける魔物を倶利伽羅竜王を勧請して退治し、その不動明王を祀ったことから、この地を「倶利伽羅」と呼ぶようになったという。



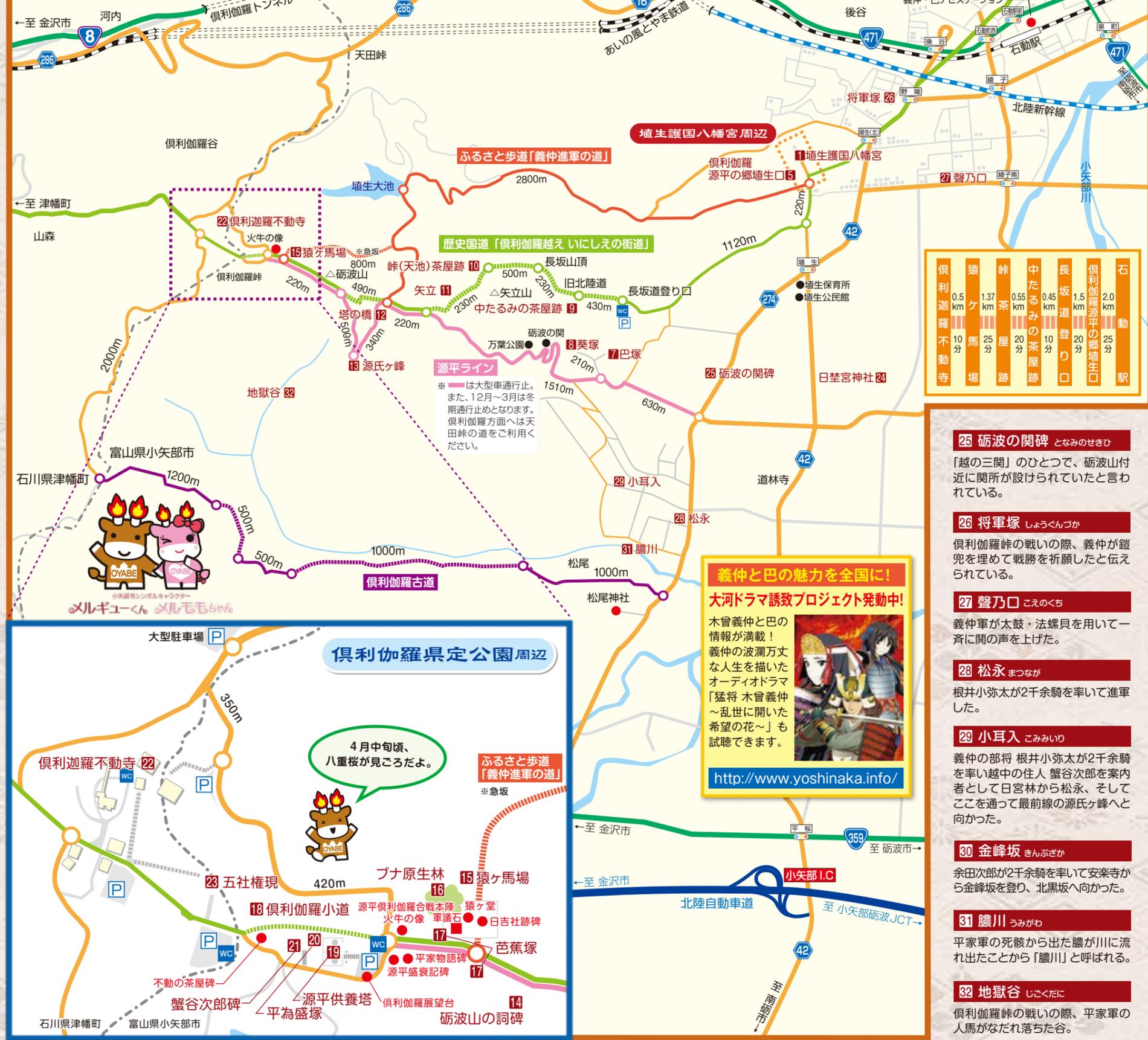
**23 五社権現** ごしゃこんげん

手向神社の末社。不動明王は長楽寺(現不動寺)に祀られたので、四社となっている。

**24 日笠宮神社** ひのみやじんしゃ

今井兼平が先遣隊 保科党を遣わして、源氏の白旗30 梳を打ち立て、砺波山に布陣した平家軍に「源氏は大軍なり」と心胆寒からしめた「日宮林」の一部。

# 小矢部市 歴史散策マップ



石動駅には、観光案内所があるよ。  
10:00~18:00  
休/月曜日  
TEL.0766-68-1062

**義仲と巴の魅力を全国に!**  
大河ドラマ誘致プロジェクト発動中!

木曾義仲と巴の情報が満載! 義仲の波瀾万丈な人生を描いたオーディオドラマ「猛将 木曾義仲 ~乱世に開いた希望の花~」も試聴できます。

<http://www.yoshinaka.info/>

**25 砺波の関碑** となみのせきひ  
「越の三関」のひとつで、砺波山付近に関所が設けられていたと言われている。

**26 將軍塚** しょうぐんづか  
倶利伽羅峠の戦いの際、義仲が鎧兜を埋めて戦勝を祈願したと伝えられている。

**27 磬乃口** かねのくち  
義仲軍が太鼓・法螺貝を用いて一斉に関の声を上げた。

**28 松永** まつなが  
根井小弥太が2千余騎を率いて進軍した。

**29 小耳入** こみみいり  
義仲の部将 根井小弥太が2千余騎を率い越中の住人 蟹谷次郎を案内者として日宮林から松永、そしてここを通って最前線の源氏ヶ峰へと向かった。

**30 金峰坂** きんぶさか  
余田次郎が2千余騎を率いて安楽寺から金峰坂を登り、北黒坂へ向かった。

**31 膿川** うみがわ  
平家軍の死骸から出た膿が川に流れ出したことから「膿川」と呼ばれる。

**32 地獄谷** じごくだに  
倶利伽羅峠の戦いの際、平家軍の人馬がなだれ落ちた谷。

